

## 子どもの気付きや探究の深まり ～自然との共生から

### 富田林市立錦郡幼稚園（大阪府）

<https://www.city.tondabayashi.lg.jp/site/neshidooriyoutien/>

#### 取組の目的・背景・沿革等

##### 🌿 地域の環境や状況

大阪府富田林市の2年保育の公立幼稚園。周囲はツバメが行きかい、自然豊かである。園児数は約20名の小規模園で、家庭の教育力は高く子どもも穏やかに育っている。

##### 🌿 取組の経緯・背景・理念等

2014年度、最初はビオトープを作ろうとしたのではなく、「園にもツバメが飛んできてほしい」「オタマジャクシが喜ぶ家を作りたい」という子どもたちの思いから試行錯誤して作った小さな水辺。そこから園庭ビオトープが始まり、その後も子どもたちから子どもたちに自然への気付きが受け継ぎ、園庭ビオトープが発展していった。

#### 取組の概要

##### 🌿 取組の内容 施設や場の特徴、プログラムの特徴

〈園にもっとたくさん生き物が来てほしい〉

園庭に生き物が集まり幼虫の羽化の瞬間に出会えるなど、様々な自然や生き物に心動かされ、愛着を持ってきた5歳児。もっと生き物が来てほしいとビオトープ池を拡充する。穴を掘る中で石や土の質に気付き、水が溜まる方法を友達と考え合い、実際に試し失敗を重ねながら作り上げていく。「生き物のために」という思いが友達と試行錯誤し自分たちで作ろうとする姿につながった。それらを教育活動の中で人形劇にする。子どもたちは今までの体験や気付きを振り返りストーリーを考えた。それぞれが生き物の気持ちを想像しながら、なりきって表現する楽しさを味わった。



〈これはドジョウ？〉

園の水路でオタマジャクシを見つけ、水がなくなる前に生き物をすくってはビオトープに引っ越しさせていた。ある時、見たことのない生き物を発見する。何という生き物か図鑑で調べ、観察しながら絵に描いたり家族に聞いたり数日間調べた結果、「ドジョウでは？」ということになった。地域の里山を管理されているTさんに聞いてみることにする。子どもたちは『これはドジョウなのか？』『ドジョウならビオトープに入れてよいのか？』『何を食べる？カエルさんとかは食べないのか？』など考えを出し合った。Tさんから「これはドジョウだよ。珍しいから大事にビオトープに入れてあげて」と教えてもらい、皆でビオトープにドジョウを放流した。その後も、拡充したビオトープ池に仲間が増えるよう、地域の祖父の田んぼに生息するメダカやホウネンエビなどの生き物を幼稚園に連れてくる子どももいた。

このように、園庭ビオトープの自然は子どもの主体性を引き出し、気付きや思考を巡らせ、時には課題にぶつかりながら、より良い方法を考えたり、様々な方法で表現したり、子どもの学びや育ちを引き出してくれている。思わぬ発見にも興味をもちその生き物に関心を寄せ、ビオトープに入れた後の生態系も考える姿は、日々の生活で自然観を育み、生命を感じながら探究を重ねているからだと感じる。



### 実施体制について

自然環境教育を教育課程に位置付け、年間計画を立て、日々の保育に活用している。また、大学の先生を講師として自然環境教育やESD（持続可能な開発のための教育）の研修を実施し、教員の自然教育の資質向上を目指している。

### 安全性への配慮

ビオトープ拡充の際には、水位や橋など子どもたちが直接関わることを想定し配慮した。また、危険な生き物や場所は園児が次の学年に自然に伝え合うなど、子ども自身が生活の中で意識できるようにしている。

### 地域機関・団体との連携

2014年地域の里山に出掛けた時、管理をされている方に出会い初代ビオトープをつくるきっかけをいただいた。その後も園児の疑問に答えてもらったり里山の在来種を分けていただいたり、園庭ビオトープの充実に携わってもらっている。また、隣接する大阪大谷大学の自然教育コースの先生方に子どもたちに直接関わっていただくことで、子どもたちや教員の自然観を広げていただいている。

## 取組による効果

### 子供・保護者への影響

保護者も自然と関わる子どもたちの姿に成長を感じ、ビオトープ拡充の際には一緒に土を掘り丸太を並べ協力をいただいた。

### 地域社会への影響

「ビオトープの集い」と題し地域の方を園に招待する。園児がビオトープのことを知らせたり、一緒に草花を使って遊んだり、園庭ビオトープに関心をもってもらう機会となった。

### 取組を通じて全体的な所感

園庭ビオトープに関わる子どもたちは、「なぜ?」「不思議」「発見!」など気付きを広げ、疑問を友達同士で考え、感じたことを様々な方法で表現しながら、豊かな感性と思考力を育てている。自然環境には多様性があり命のつながりを感じられるなど、幼児期に培うべき学びの要素がたくさん含まれ、それは子どもたちの「人間力」につながっていることを実感する。今後も持続可能な社会の創り手となるようESDの視点で、園庭ビオトープで生活する子どもたちがその感覚を積み重ね学ぼうとする体験を大切にしていきたいと考えている。